

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都四条大宮プロジェクト	階数	地上9F
建設地	京都市下京区四条通堀川西入唐津屋町529番地他	構造	S造
用途地域	商業地域, 防火地域	平均居住人員	354 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2019年9月6日
敷地面積	670.47 m ²	作成者	浅井謙建築研究所株式会社
建築面積	551.16 m ²	確認日	2019年9月6日
延床面積	4,793.21 m ²	確認者	浅井謙建築研究所株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.9 ★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% (0-184 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み 88% (0-138 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>③上記+②以外の 88% (0-138 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>④上記+ 88% (0-138 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能 5</p> <p>Q1 室内環境 3</p> <p>Q3 室外環境(敷地内) 3</p> <p>LR1 エネルギー 3</p> <p>LR2 資源・マテリアル 3</p> <p>LR3 敷地外環境 3</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.0</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.8</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.8</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>各居室に等身大の大きな窓を設置することにより、滞在したお客様に京都の景観を楽しんでいただけるよう設計</p>	<p>その他</p> <p>特になし</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>ロビー・居室ともに光を多く取り入れる空間設計</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>外装材・内装材ともに耐用年数の長いものを使用</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>防犯カメラの設置により防犯性に配慮</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>BPI_m=0.90, BEI_m=0.86</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>グリーン購入法適合商品を積極的に採用</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LCCO₂=88%</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される